

受験番号

2022年度

神戸国際中学校 B-I 選考

国語

(2022年1月16日実施、50分、100点満点)

(注意)

- 1 解答用紙と問題冊子の両方に、必ず受験番号を記入してください。
- 2 全ての問題に解答してください。
- 3 解答は全て解答用紙に記入してください。記入方法を誤ると得点にはならないので、十分に注意してください。
- 4 試験終了後、解答用紙と問題冊子の両方を提出してください。

一 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。(設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。)

機械は人が考えたものです。自動車もコンピュータも、誰かが考え出すまではそういうものはありませんでした。(A)、新しい。それに比べて生きものは人間がこの世に登場したときにはすでに存在していました。自動車やコンピュータはaメンドウだから使わないとか、嫌いだとかいうことができます。(B)、生きものと接しない人はいないでしょうし、自分が生きものなのですから嫌いだといつてもいられません。

ところが、接し方となると、①ふしぎなことに機械のほうが気分的に楽です。自動車は、教習所へ通って扱い方を習いbコウゾウも勉強すれば、自分の思いどおりに動かせる。大事にするとなれば、エンジン油に気をつけるとか、ピカピカに磨いてきれいにしておくなど、それぞれ気にするところは違いますが、なにをすればよいかわかります。

けれども命はなによりも大切にしなければいけないということは誰もがわかっているけれど、あらためてそれはどういうことかと考えると、これと決まったものはありません。子どもを大切にするといいても、②あまりいいじりまわしてもいけないし、だからといって好きにさせておいたらこれもいけないでしょう。食べものだって、好物だけ食べさせるのがよいとはいえません。

なにをすれば命を大切にしたいことになるのかというの、なかなかむずかしい。(C)、cフクサツな機械のほうが扱い方がわかり、いちばん身近な生きもののがいちばんわからないというのは、困ったことです。でもそれが事実なので、それを素直に受け止めたうえで、

③少しづつ解きほぐしていこうと思います。

科学は、生きものについても多くのことを明らかにしました。なかでもDNAが遺伝子としてはたらくことがわかったことは、二十世紀最大の発見といつてよいでしょう。けれども、科学のdナンテンは、いまわかつていることですべてがわかったような行動をしまいがちなことです。とくに最近ではDNAが人気で、なんでもDNAで語られる傾向があり、私のほうが戸惑うことが少なくありません。「日本人のDNAですかね」とか「どうも私の遺伝子がそうさせているようですね」とか。ときに言い逃れかなと疑ってしまうことも④なきにしもあらずです。この本ではDNAの話はあまりしないつもりですが、DNA研究が進むほど、遺伝子決定論からは離れていくというのが私の実感です。

最近では脳の研究が進み、記憶にかかわる細胞や遺伝子がわかり、さまざまな機械で人間の脳のはたらきを測定できるようになりました。研究者のなかには、脳研究でわかったことを教育に生かそうと考える人が出はじめていますが、これまた、⑤遺伝子と同じで、機械論的に見るのは危険です。

私は、⑥生きものへの接し方のいちばんよい方法は、科学でわかっていることを充分理解したうえで、目の前にいる生きもの(人間も含めて)の全体と接し、相手が出している信号をできるだけたくさん受け止める努力をすることだと思えます。これをいちばん強く感じるのが植物と接するときです。先日、岡山県の農業高校の生徒さんが※ランを送ってくれました。これがすばらしい。とても美しくてしかも丈夫なのです。そのランについていた札にこう書いてありました。

「可愛がってください。でも可愛がりすぎないでください」
わかるわかる。でもそれがいちばんむずかしいのです。

庭の木や草花を育てるのもそうです。育てるのが上手な友人の様子を見てみると、花の状態のこまかいところを見るのが上手です。そして、それに対応する知識をもっている。そのうえで植物全体を眺め、ちよん

と枝の先をつんだり、少し肥料をやったりしています。生きものについての科学的知識は、知識があるからそれですべてを動かそうというのではなく、相手の信号をできるだけ多く受け止めた後で、それに対応するために使うものだと思います。知識で動かそうとするのは、生きものを大切にすることにならないでしょう。

(中村桂子 「生きもの感覚で生きる」)

※ラン：ラン科植物の総称。花の名前。

問1 一線 a s d のカタカナを漢字に直しなさい。

問2 (A) (B) (C) に入る語として適切なものを次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア むしろ イ それとも ウ しかし エ つまり

問3 一線①「ふしぎなことに機械のほうが気分的に楽です」とありますが、これはなぜですか。「生きもの」と「機械」の扱い方にどのような違いがあるかに注目して四十文字以内で答えなさい。

問4 一線②「あまりいじりまわしてもいけない」とありますが、「いじりまわす」とはどういうことを言っているのですか。具体例を考えて答えなさい。

問5 一線③「少しずつ解きほぐしていこう」とありますが、何を「解きほぐす」のですか。「くこと。」が後に続くように本文中から二十五文字以内で抜き出して答えなさい。

問6 一線④「なきにしもあらず」とありますが、これはどういう意味ですか。適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

ア まったくない。 イ たくさんある。

ウ ほとんどない。 エ 少しはある。

問7 一線⑤「遺伝子と同じで、機械論的に見るのは危険です」とありますが、どういうことが危険だということですか。その説明として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 機械で脳をすべて解析するように、教育もすべて機械で解析できると考えること。

イ 脳の仕組みがすべて機械でわかると思い込み、機械で分からない部分を否定すること。

ウ 脳の研究でわかったことが教育に対して万能だと考え、分からない部分を認めないこと。

エ 遺伝子が人の生き方を決定していると思ひ込み、すべてを遺伝子のせいにする事。

問8 一線⑥「生きものへの接し方のいちばんよい方法」とありますが、これはどういう方法ですか。最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア ひたすら相手のことを観察し、相手の状況も含め、得られた知識を用いて相手の困難な状況に対応するという方法。

イ 自分の相手に対する知識を努力して深めていき、主にその知識によって相手の状況に対応していくという方法。

ウ あらかじめ相手をどうしたいかの方針を決めておき、よく観察し、相手についての知識で対応していくという方法。

エ 相手の発する信号をなるべく受けとめてから相手についての知識を用いて対応していくという方法。

二 次の文を読んで、あとの問いに答えなさい。解答に字数の指定がある場合は、句読点やかっこなどの記号も字数として数えます。(設問の都合上、原文の表記を一部改めたところがあります。)

主人公は小学六年生で、小学校の※ポトポールのチーム、「オール木成」の代表選手に選ばれた。代表チームの担当の教員は児童たちに「やさお」と呼ばれている。「みどりちゃん」はチームメイトである。

オール木成に入ったということで、私はピアノをやめることにした。毎週火曜日の四時からレッスンだったけど、オール木成の練習は毎日六時ごろまであるからいけなくなったのだ。

でもそれは、ただお母さんを納得させるための言い訳だ。オール木成の中でも習い事をしている子は何人もいる。やさおに言っ、決まった時間に帰る子もいるし、休日に曜日変更した子もいる。

だから①オール木成に入ったことと、習い事をやめるということは、イコールではない。でも、初めのミーティングのときに、やさおはこう言った。

「練習は必ず出ること、病気、けが以外での欠席は原則認めない」

実際このひとことで何人かは習い事をやめた。お母さんたちも、学校の行事ということで、案外簡単に習い事をやめさせてくれたみたいだった。そう、大人なんて結局なんだっていいのだ。学校から帰ってきて、すぐにテレビを観たりゲームをしたりしないで、ためになる「何か」をしていれば満足なのだ。

私はこれが②絶対のチャンスとばかりにオール木成のことを持ち出して、ピアノをやめることを堂々と言った。するとお母さんは、

※拍子抜けするくらいあっけなく了承してくれた。こんなだったらもっと早く言えばよかった、と後悔したくらいだ。

私はピアノが大きらいだった。ピアノというより、ピアノの練習がいやでいやでしかたがなかった。月曜の夜のあのせり。あの感じ。でもどうしても練習をする気になれない(A)。

私はみどりちゃんのことを考える。みどりちゃんと私は、同じピアノ教室に通っていて、その教室で春に発表会があった。市内の同じ系列のピアノ教室の生徒が集まって、地元の文化会館で行われた小さいものだったけど、私は案の定、「練習をする」というセンスがまったくなく、いつまでたっても上達しなかった。私の弾く曲は、十分実力の範囲内の曲だったし、時間は十分すぎるほどあった。

にもかかわらず、いつまでたってもちっとも上達しない私に、先生はあきれかえりながら、最終手段として「補習」という、思いもかけなかったとんでもない隠し技を提示してきた。(中略)

それにこの補習は私のためじゃない。本番で先生が恥をかかないための補習レッスンだと思えなかった。

私は(B) レッスンに行き、うんざりしながらみどりちゃんに、そのことを告げた。みどりちゃんは、同情とも哀れみともつかない変な表情をして、

「大変だね」

とひとことだけ言った。

しかし、それからしばらくたったある日、みどりちゃんは私に、

「うらやましいよ」

と(C) 言ったのだ。

「えっ、何が」

「ピアノ。レッスン日以外にも、先生から教えてもらえるなんていいなあ……」

私は自分の③耳を疑った。

「なんで?なんでなんで。だって無理やりやらされてるんだよ。あまり

にも下手だから、しょうがないからやってるんだよ。先生だって本当はイヤイヤなんだよ」

「ううん、ちがうよ。さえちゃんには上手になってもらいたんだよ。期待してるの、先生は。発表会でうまく弾けるようになって」

(中略)

発表会当日、私は自信のなさのために、少しばかりテンポを速く弾きすぎてしまったけれど、それ以外はけっこううまくできた。先生もほっとした様子で、笑顔を見せてくれた。

でも、練習では完璧だったみどりちゃんが、本番で二回もミスってしまったのだ。みどりちゃんはそれでも堂々としていたけど、心の中ではきつと残念に思っていたと思う。

それとも、私に対して「ほらね、さえちゃんは補習をしたから上手に弾けたでしょ。私は教えてもらえなかったからまちがえて当然なの」と思っていたのかもしれない。そう考えるところと悲しかったけど、終わってから「ほっとしたね」となんのふくみもない晴れ晴れした笑顔で言われて、④私はそんなふうに着地悪く思ってしまった自分を呪った。

(中略)

ピアノを最初に習いたいと言い出したのは自分だった。先にお姉ちゃんが習っていて、それはとてもたのしそうに気持ちよさそうに、私はお母さんをお願いして、二年生のときからピアノを習いはじめた。

「さえは、本当に飽きっぽいわね……」

台所でお姉ちゃんの結婚進行曲を遠くにききながら、お母さんが言った。

「……⑤別にいいじゃん」

何も言いかえせない自分を、私がいちばんよく知っていた。私は本当に飽きっぽいのだ。なんでもすぐに手を出さずに、あつというまにやめてしまう。そろばんもスイミングも。

ある程度できるまでは一生懸命やるけれど、なんとなくできるようなになると、もうなんだかどうでもよくなってしまうのだ。

私はピアノのある部屋に行つて、お姉ちゃんの軽やかな指先を見つめた。高校一年のお姉ちゃんは、私よりも背が低い。私の身長は去年の夏、驚くべきスピードでぐんと伸びて(夜寝ていて、背骨が伸びる音がきこえたくらいだ)あつというまにお姉ちゃんを追いこした。

「何よ、あんたも弾くの?」

一曲弾き終えたお姉ちゃんが、振りかえつて言った。

「ううん、ねえ、もう一回弾いて、今のやつ」

お姉ちゃんは、右の眉毛をちよつとだけ持ちあげてから、いいわよと言つて姿勢を正し、きちんと座り直した。

たたたたーん、たたたたーん、

たたたたたたた、たたたたた、たたたたた、

じゃーんじゃじゃじゃじゃじゃ、じゃーんじゃらんらんらん。

丸くて赤ちゃんのようにもちもちとしたお姉ちゃんの小さな手は、あつちに行つたりこつちに來たりして軽快に動く、私の(D)は釘づけで、すごいなあとただそれだけ思う。

だって、お姉ちゃんの紅葉みたいな手は、一※オクターブ届くか届かないかのぎりぎりの大きさしかないのだ。それなのにこんなに鍵盤が離れている和音いっぱいの曲を、簡単に弾いてしまう。

私の指はお姉ちゃんよりうんと長いし、一オクターブ以上(ドから次のレまで)軽く届く。初めてのレッスンのときに、

「この子は将来、必ず私よりうまくなります」と、先生に言われたほどの指なのだ。

それなのに、私にこの曲は弾けない。技術的にはもちろんだけど、そうじゃなくてほかの何か。なんて言えればいいのかわからないけど、私は絶対弾けないのだ、きつと、一生。

お姉ちゃんはピアノを弾くときだけ指がすつと長くなるし、私はピアノを弾くときだけびたりと指が縮こまる。つまりは、そういうことだ。そういうことが、世の中には案外と存在するのだ。

私はそのことにたまった今気づいた気がして、そしてそれを意外にもすんなりと納得している自分に、ちよつぱりがっかりしたのだった。

(椰月美智子 『十二歳』)

※ポートボール：バスケットボールに似た、日本独自のスポーツ。学校の

の体育の授業や、子供会などで行われる。

※拍子抜け：はりあいがなくなること。

※オクターブ：音階で、ある音から完全八度へだたった音。ドからシまでの一続き。

問1 一線①「オール木成に入ったことと、習い事をやめるということは、イコールではない。」とありますが、これはなぜですか。五十字以内で説明しなさい。

問2 一線②「絶好のチャンス」について、

- (1) これは何のチャンスなのか。十字以内で答えなさい。
(2) どうして「絶好のチャンス」と思うのですか。二十字以内で答えなさい。

問3 (A) に入る語として適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア もどかしさ イ うつとうしさ
ウ にくらしさ エ みじめさ

問4 (B)・(C) に入る語として適切なものを次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

B ア いそいそと イ しぶしぶと

ウ そそくさと エ おろおろと

C ア パシつと イ ぶすつと

ウ ポツリと エ のんびりと

問5 空欄Dに入る体の一部を表す語を漢字で答えなさい。

問6 一線③「耳を疑った」とありますが、これはどうしてですか。次の文の空欄(1)・(2)に入る語句をそれぞれ十五字以内で答えなさい。

私は、先生は私が(1) (補習をやっていると思っ

ている) と思っ

ていっていると、全くと違うことを言ったから。 (補習

をやっていると、全くと違うことを言ったから。

問7 一線④「私はそんなふうに意地悪く思ってしまった自分を呪った」とありますが、この部分の説明として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア 私の方がみどりちゃんより期待されているとみどりちゃんに言っておけばみどりちゃんの変なプレッシャーを背負ってミスすることとはなかったのにと自分が嫌になった。

イ どうせみどりちゃんの方が上手いのに下手な自分が嫌々補習を受けても無駄だと思っていたのは失敗したみどりちゃんに対して申し訳ないと自分をうらめしく思った。

ウ みどりちゃんが補習を受けずにすんだことを内心うらやんで、先生から補習を受けたからミスをしなかったんだと思っていた自分が恥ずかしく思えた。

エ みどりちゃんは私が補習を受けていたことを悪く思っていると予想していたのに、何も気にしていない様子だったので、自分が間違っていたと自分を責めた。

問8 —⑤「別にいいじゃん」とありますが、このときの私の説明として最も適切なものを次のア～エから選び、記号で答えなさい。

ア お母さんに飽きっぽいつつものように小言を言われて面倒くさくなっている。

イ 母さんの飽きっぽいつつという言葉通りなので、言い返す言葉が見つからないでいる。

ウ お母さんの飽きっぽいつつという言葉が自分の予想外だったのでいらだっている。

エ お母さんに飽きっぽいつつと言われてその通りだとはじめて気づいて驚いている。

三 次の①～④までの文について、同じ内容が言い換えられるように、問題の文に続くように文を完成させなさい。ただし、傍線部と対になる言葉を使うこと。

①日本は、アメリカから小麦を輸入する。

← アメリカは、()

②弟が、兄からリュックを借りる。

← 兄が、()

③石田君が、大山さんにギターを売る。

← 大山さんが、()

④Aチームが、Bチームに敗北した。

← Bチームが、()

四 次の①～④の組の漢字に共通してつけられる部首の名前をそれぞれ答えなさい。

例 田・非・士・亡 (あし)

↓思・悲・志・忘 ↓ 答え.. したところ (ここ)

① 重 多 火 少 (へん)

② 首 反 束 米 (にょう)

③ 干 半 貝 害 (つくり)

④ 官 由 合 寺 (かんむり)